

## 学校関係者評価委員会における委員の評価

2026.2.3

海星学院高等学校

117教室

- 昨年度からPTAの補助により女子トイレに生理用品を設置していることも、生徒一人ひとりに寄り添った学校体制なのではないかと思う。引き続き取り組みを継続して欲しい。
- 授業を参観して、感じたことは、授業そのものが魅力的であり、中学校教員やオープンスクールに参加した生徒からも感動したとの声を聞いていたが、それも頷ける。そのように海星が評価されていることに私も嬉しく思っている。デートDV防止教室だけでなく、人権擁護委員会には優れた教材があるため、活用して欲しい。
- 我々の時代と違い、講義だけでなく、グループ活動を通して思考力、判断力、表現力などの能力を高めているのだと実感した。指導方法が向上していくと、生徒の力も伸びていくと思うので、さらなる指導力の向上を期待している。
- 通信教育の体制を整えており、椅子にじっと座ってられない子どもや様々な特性のある子どもたちも学校で学べるような温かい雰囲気を感じた。マンツーマンとまではいかなくとも、個人に寄り添った支援体制になっており、このようなスタイルの学校運営だと地域も助かる。このような学校の取組を地域に広く、知らせてほしい。
- 道立高校においても令和6年度から実施可能となっているが、通信教育を導入している学校は少ない。このスピード感をもって導入していることは、学校運営上も素晴らしい。学びの担保があり、子どもに対して学校で受ける教育が担保されていることを強く感じた。道南は私立高校の数が多く、生徒の取り合いにもなるが、道外の通信制のサテライト校が増えてきている。そ

のため、道内で生徒の取り合いをしている現状ではなく、道内外問わず、私学の通信教育を第一志望とする子どもも増えてくるだろう。そのため、海星入学後も通信教育を受けるといった学びの担保がされていることは強みと感じた。

- 中学校時代に不登校だった特別支援学級の生徒たちも海星に入学後、3年間の学びを経てしっかり卒業していているという実績には感謝している。外部の講師を招いたり、ほっとを活用した研修など、外部の力を活用して学校の力を高めている点が素晴らしい。昔は「教科の壁」というものがあり、教科の違う教員間で本音を話し合うことは難しかったが、専門的な教科学習のことだけでなく、どうしたら教員の指導を子どもに還元していけるかよく考えられている。6時間目の授業において、集中力を欠いた生徒が全く見受けられなく、生徒の個々に応じた個別指導を行っていることがうかがえる。今は小学生においてもネットトラブルが起きる世の中であり、特に長期休み中のトラブルが多い。しかし、海星は学校全体で日々研修を積んでいるようであり、これからも期待している。